

チャトゲコナジラミに対する効果的な薬剤散布方法

[研究のねらいと取り組み]

- ・チャトゲコナジラミ(図1)は、2010年に静岡県で初めて発生が確認された侵入害虫であり、現在、県内すべての茶産地で一般害虫化している。
- ・本種の防除対策としては、年3~4回発生する各世代の若齢幼虫を対象とした薬剤防除や、越冬世代幼虫に対する秋冬期のマシン油乳剤の散布が挙げられる。しかし、生産現場からは、こうした防除にもかかわらず、本種が多発するとの声も数多く聞かれる。このため、本種への薬剤散布方法に焦点を当て、防除試験を実施した。



図1 チャトゲコナジラミ成虫及び幼虫

[研究の成果]

- ・2019年の二番茶萌芽期に、チャトゲコナジラミの幼虫に効果の高いハチハチ乳剤を用い、「すそ葉裏散布(表1脚注参照)・400L/10a」、「慣行散布(表1脚注参照)・400L/10a」、「慣行散布・200L/10a」の各散布方法における防除効果を比較した。
- ・摘採面+すそ葉の葉裏に薬剤が付着するように散布した「すそ葉裏散布・400L/10a」は防除率が100%となり、摘採面+すそ葉の葉表に薬剤散布した「慣行散布・400L/10a」及び「慣行散布・200L/10a」よりも高い防除効果を示した(表1)。
- ・以上から、チャトゲコナジラミの薬剤散布方法は、「すそ葉裏散布」が効果的と考えられた。

表1 薬剤散布方法の違いによるチャトゲコナジラミに対する防除効果

供試薬剤<RACコード ^{a)} > (成分%)	散布 薬量	散布 方法 ^{b)}	反復	処理前(6/5)			処理20日後(6/25)				防除率 %	
				1齢幼虫	2齢幼虫	合計	3齢幼虫	4齢幼虫	羽化殻	合計		
ハチハチ乳剤<21A> (トルフェンピラト ^{15%}) 1000倍希釈	400L /10a	すそ 葉裏 散布	I	276	10	286	0	0	0	0	100	
			II	316	18	334	0	0	0	0		
			III	388	23	411	0	0	0	0		
			平均	326.7	17.0	343.7	0	0	0	0		
	200L /10a	慣行 散布	I	294	20	314	19	11	1	31	62.1	
			II	289	26	315	12	0	0	12		
			III	653	30	683	40	3	0	43		
			平均	412.0	25.3	437.3	23.7	4.7	0.3	28.7		
	無処理	—	—	I	199	3	202	7	1	2	10	63.2
				II	669	19	688	18	6	0	24	
III				464	62	526	54	2	0	56		
平均				444.0	28.0	472.0	26.3	3.0	0.7	30.0		
無処理	—	—	I	155	6	161	31	1	0	32	80.0	
			II	635	28	663	151	10	0	161		
			III	546	19	565	40	7	0	47		
			平均	445.3	17.7	463.0	74.0	6.0	0	80.0		

a)21A:ミトコンドリア電子伝達系複合体 I 阻害剤(METI)

b)すそ葉裏散布:「摘採面+すそ葉」に上方から散布+うね間の下方から上方に向けて「すそ葉の葉裏」にもかかるよう散布
慣行散布:「摘採面+すそ葉」に上方から散布